

将来のモデルケースとなるための エージフリー教育@専門学校

平野正喜 HIRANO,Masaki
ランドッグ・オーグ平野正喜事務所
mau@rundog.org
2013/01 @ 田町
SEA新春教育フォーラム

自己紹介

- フリーの講師&作家、元SE/PM。日本で唯一(?)のソフトウェア技術者協会(SEA)正会員兼日本劇作家協会正会員。教育分科会(SIGEDU)世話人。
- 講師としての仕事: 専門学校(ビジネス系/ゲーム系)のIT基礎やプログラミング講座。社会人向けIT総合講座。企業向け業務作文講座、新入社員教育 他
- 作家としての仕事: 書籍「応用情報技術者標準教科書」「Brew」「Eclipse辞典」「クアルコム次世代プラットフォーム戦略」「基本情報合格テキスト+問題集(共著)」「HSPA+/LTE/SAE教科書(共著)」他、Web「IT media」「@IT」「NGNフォーラム」「ヒューマンリソシア」「RBB Today」、創作歌舞伎脚本、他

私のポジション(結論)

- 専門学校では年齢も経歴もバラバラな「学生」に対応できる教育が必要
- 求められるのはエージフリーな(年齢・熟成度に依存しない)カリキュラムと授業システム
- エージフリーなカリキュラムの例: コースを複線化し組合せや速度を変えられるカリキュラム
- エージフリーな授業システムの例: Webベースの講義メモ&コメントシステムとフィードバック
- まずは、年齢・熟成度への依存を下げていく工夫からはじめてはどうか
- 今後、この考え方が高校以上の全ての教育現場に必要なものではないか

現状

- 専門学校では高卒に加えて、社会人経験者や四年生大学卒と高校未卒業者(※)が同じクラスにすることが日常化し始めた
※ ヒューマンアカデミーは高等部を有し、高校と専門学校の「W卒業」が可能
- 平均以上の成績で大学を卒業した学生が、1レベル上の就職や起業の為に専門学校に入る場合
- アンマッチだった就職・進学をし直すために専門学校に入る場合がある
- つまり、夜間定時制高校などで見られやすい「あぶれた」「落ちこぼれた」タイプだとは限らない

背景

- 少子化
- 主に高校卒と大学卒の就職難
- (一部の)高校までの教育不全
- (一部の)高校の中学化、(一部の)大学の高校化
- 採用の多様化

エージフリー教育とは

- 私的造語で、エージとは「年齢」「熟成度」の両方の意味(類語: エージング)
- 年齢も経歴もバラバラな「学生」に対応できる教育
- 社会人向け教育の一部では当然のごとく行われてきた
例: 芸能講座(踊り、花、楽器)、将棋囲碁教室等
- 主な伝統的手法: マンツーマン、極少人数クラス
- これを多人数クラスに応用したい
- 求められるのはエージフリーなカリキュラムと授業システム
- ※ 専門学校ではエージフリーなカリキュラムは難しい

エージフリーなカリキュラムの例(参考)

- 私がヒューマンアカデミー各校で担当している社会人向けIT総合講座(※専門学校ではない)
- 受講生は10代から50代まで:高校生から社会人(管理職)まで
- 目標もニーズもバラバラで集合教育は不可能、しかも、変化しやすい
- コースを複線化し(プログラミング(Java/C/C++/サーバ系/Web系)、ネットワーク、データベース、セキュリティ、情報試験対策、等)、受講生の後方を講師が巡回する講義方式に
- カリキュラムを「線」ごとに組合せて用意し、入学時&毎回のカウンセリングにおいて目標速度を調整

エージフリーなカリキュラムの例(続き)

- 例:
コース開始時 [Javaプログラミング34回]
⇒ ニーズ変更 [〃24回]+[CCNA講座10回]
⇒ ニーズ追加 [4月のみ基本情報試験対策3回]
- 受講開始後も、毎回確認してカリキュラムを見直し、ニーズや情勢の変化に対応
- 講師の負担が大きいを受講生の理解と協力を得ることで実現

エージフリーな授業システムの例

- 私がヒューマンアカデミー専門学校で担当しているプログラミング講座&IT基礎講座
- 受講生は専門学校生だが社会人経験者や四年生大学卒と高卒と高校未卒業者が同じクラスにいる
- 「板書大好き」「板書はしない」「するけど読まない」が混在
- 意見や感想を口に出したくない学生が多い(クラス内の世代差に尻込み?)
- しかも、クラス制で数十人の構成なので、集合教育にせざるを得ない
- そこで、Webベースの講義メモ&コメントシステムを構築して採用

エージフリーな授業システムの例(続き)

- 板書の代わりにPC上でタイプしてプロジェクタで投影し、1ページ書くごとに専用のインターネットBBS(電子掲示板)に転記していく
- 学生はプロジェクタで現在のテーマを読みつつ、自分のPCやPadでBBSを開いて遡りが可能
- また、講義のラストに課題/ミニテストを提示し、Webフォームからの提出/回答とコメント記入を求める
- コメントは必須とし、講義の感想・質問・抱負を主とするが「今週の萌え要素は?」「好きな/初めての〇〇は?」も可(なにか一つは書けるようにする)
- 〇〇の例:ラーメン、カレー、TV番組、ゲーム、映画、おでん、CD/レコード、動物(非実在可)等

エージフリーな授業システムの例(続き)

- 集まったコメントは匿名で集約して講師の意見を書き加え、次回の講義冒頭でBBS上に掲載
⇒このフィードバックの繰返し、クラス内の世代差を埋める効果を生む(特に「好きな/初めての〇〇」)
- 同時に担当全講師とスタッフに全コメントを実名つきでメール配信し情報を共有する

今後についての私見

- エージフリーなカリキュラムや授業システムへの取り組みは常にうまくいくとは限らない(受講者の理解・協力が不可欠)
- 難しい場合、まずは、年齢・熟成度への依存を下げていく工夫からはじめてはどうか
例:カリキュラムの柔軟化や、PC、Pad、スマートフォンなどの受講者所有ITツールの活用等
- 今後、この考え方が高校以上の全ての教育現場に必要なと思われる

※ 発表スライドはフォーラム後に当方のブログからダウンロード可能です <http://rundog.txt-nifty.com/>